





「不登校のゴールは何だと思いますか?」と牧師先生に聞かれました。私は答えられなかつたんですが、ゴールは「学校に行くことではありません。不登校してよかつたと思えるようになることです」とおっしゃつたんです。

その時は意味がわからなかつたんですけど、今は本当にそうだと思います。もし不登校していなかつたら、私はとんでもない母親になつていたでしょうね。もっと勉強しなさい、もつと良い高校、大学、会社へ行きなさい、もっともつとと、息子をコントロールし続け、本当の意味で彼の人生をダメにしているふうんです。

去年ですか、息子に「不登校してくれてありがとうございます」と言つたんですよ。「おかげで自分がどんなにひどい母親かわかつたし、それに何よりも神様を知ることができたから」と。

不登校にもいろいろなケースがあるでしょうが、本人の気持ちを聞いてあげていただきたいですね。親は人生の先輩としていろいろな選択肢を提供するけれども、決めるのは本人。本人が自分の意志で決めると動き出

すんですね。それと見捨てないことだと思います。何らかのかたちで関わり続けるのが大事だということを、この長い試練を通して学びました。なかなかできないことです……。

一今までお話を聞いてみると、純さんは非常に感受性が強いお子さんだと思うのですが、お母さんの思いや言動からいつも何かを探していたところがあつたのではないかでしようか。

登坂 実は、毎年10月26日の『不登校記念日』になると私は悲しくなり、教会の先輩婦人に一緒に祈つてもらつてきました。

不登校から7年目のその日は、その方の都合が悪くて、私は一人で教会の祈祷室で祈りました。その時、心の底から搾り出すような思いがふき出してきました。『もういやだ、もう待てない、我慢できない。純と一緒に死んでやる……』と、2時間ぐらい祈つたというか、積もり積もつた苦しみや悲しみを



家族で遊園地へ立っているのが純君、左から長女の吉田佳子さん、ご主人の秀樹さん、裕子さんお孫さんは、小梅(こうめ)ちゃん、一葉(ひとは)ちゃん



大学祭での純君（左側）

よという感じでした。それで、中3の3学期、受験直前に主要教科を終えて間に合つたんです。

いくつかの高校の説明会にも、息子と一緒に行きました。でも純には内申書がなくて、公立高校はほとんどダメだとわかつてがつかりしました。そんな時、担任の先生が「こんな高校あるわよ」と、東海大学付属の単位制高校の学校案内を持ってきてくださつたんです。そこは一切関係なし、不登校や中退の生徒を受け入れている高校でした。授業も週4日で純には無理がなく、「ここだね!」と純

と祈りました。

不登校の9年が過ぎて、一九九年四月に高校入学とイースター受洗で、私は本当に夢のようでした。

ある日、息子に「高校と大學、順調に行けて、お友達もたくさんてきてよかつたねえ」と言つたことがあるんですが、「とんでもない。僕は毎日、友達ができるか不安で不安で、電車の中で必死に祈つたんだ。一日に一人ずつ友達ができるようにとね」と言いました。

一同じように不登校のお子さんを持つている方たちへのアドバイスはありますか。また、ここ

と言い合いました。ホントに最善の高校で、3年間無事に通うことができました。

大学も、推薦に受かつて東海大の心理学部に入学できました。

一それは奇跡的な出来事でした

まで支えられたのは何が大きかったですか。

登坂 この状況に耐えられたのは、聖書のみことばのおかげでした。そして教会の方たちに支えられ、祈つていただいたことに、学年が上がるたびにがつかりしたり、教会で泣いたりしていたんですよ。でも、教会で初めての頃に聞いたみことばに「すべての営みには時がある」というのがありました。「泣くのに時があり、ほほえむのに時がある」（伝道者の書3章1、4節）

それを聞いた時に思つたんです。私は今は泣いているけど、きつといつか喜ぶ時が来るんだと、このみことばにすがりつくような思いでした。

当時、不登校と言えば、親が悪い子どもが悪い子どちらかで、ホントにいろいろ言われました。「お母さん、過保護になりました。息子が育てたんじゃないの。かわいがり過ぎたのよ。わがままなお子さんですね」とか。偉い心理学者の本を読めば、いろいろなパターンで分類してあつて「母子不分離型、社会協調性欠如型、過保護型」もう恐ろしくなるわ

けです。絶望するんです。そんな時、教会のメッセージで聞いたヨハネの福音書9章2節のみことばが、私にはこう聞こえたんです。『あなたの息子が学校に行けないのは、あなたせいでもないよ。神のわざが現れるためだよ』

そして「イエス様は私を責めない。純をダメだとも言わない。イエス様がいつかなんとかしてくださるんだ」とホッとしました。

一純くんが学校に行けなくなつてから、お母さんの気持ちの中で何か変化はありましたか。

登坂 このことを通して大きくなつたことは、「これまで」「これまで」「これまで」と、子どもの気持ちを聞かうしない、ああしない。どうしてママの言うとおりにしなったことです。それまでは「こ

ううしなさい、ああしなさい。どう変わつたのは、「あなたはどうしたいの?」と聞けるようになります。お母さん、過保護になりました。息子が育てたんじゃないの。かわいがり過ぎたのよ。わがままなお子さんは、それに気づいたかった、つまり相当自己中心なんですよね、私は。それに気づくのに7年かかりました。

一それはお子さんにとつて「プレッシャーだつたんでしょうか。

登坂 そうだと思ってます。

一現在、純さんはどうしているつしやいますか。

登坂 大学を卒業して大学院を受験したのですが、不合格となつたんです。神様は、私が本心をさらけ出すのを待つておられたんですね。その時から事が動きました。

純に「中学卒業したら、どうしたいの?」と、何のたくらみもなく聞けたのは、このあとだつたんです。神様は、私が本心をさらけ出すのを待つておられたんですね。その時から事が動きました。

純は息子と神様との問題なのだと考えられるようになつたことです。神様がいづれ導いてくださいと、日々揺れ動きつつも期待しているところです。

でも私が以前と違うのは、こ

れは息子と神様との問題なのだと考えられるようになつたことです。神様がいづれ導いてくださいと、日々揺れ動きつつも期待しているところです。

一どうもありがとうございました。